

兵庫県立森林大学校 令和6年度学校評価

1 学校の教育目標

人材の養成	(到達目標)
(1) 森林林業の即戦力となる人材の養成	課題に対して、自ら考えて、安全かつ効率的に現場作業が実施できる。
(2) 森林林業の次代のリーダーとなる人材の養成	幅広い視野を持って将来を見通すとともに、状況の変化や課題に対し柔軟かつ計画的に判断と行動ができる。
(3) 多自然地域に居住し、地域貢献する人材の養成	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域振興や課題の解決に貢献できる。

2 本年度に定めた重点目標

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ア 意欲ある学生の確保	令和7年度専攻科入学生(9期生)の確保 20人	未達成 1名	<p>・現在(3月11日時点): 1名出願、うち1名合格 (経過) ・11月入試: 学校推薦により1名が出願し、1名が合格 ・12月入試: 出願者なし ・3月入試1回目: 出願者なし ・3月入試2回目: 3月17日(月)まで出願受付中</p> <p>(取組状況) ・パンフレットや学生募集要項等について6月末までに作成し、県内及び近隣府県の高校を訪問して学校説明 ・特に、専門学校や就職を目指す割合が高い高校は、重点的に実施 ・また、大学進学から進路変更の可能性が高い時期にも重点的に実施</p> <p>・森林や環境に関心の高い入学対象者やその家族が立ち寄る可能性が高い施設(アウトドアや道の駅など)にポスターやパンフレット等で周知</p> <p>・ホームページ(県、グーグル)やSNS(フェイスブック、インスタグラムやエックス等)による発信するほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を強化</p> <p>・都市部等からのUJIターンを希望する社会人に対し、林業の仕事ガイダンスや移住相談会等での広報を実施</p>	<p>・パンフレットや学生募集要項等について、専門学校を目指す多くの高校生が進路選択を行う5月末までに作成</p> <p>・高校生の進学先の選択肢になるよう、早期の学校訪問を実施するとともに、専門学校や就職を目指す割合が高い学校への勧誘を強化</p> <p>・入学試験の時期を近隣の大学校より早く実施(7月末予定) ※現在、1回目が11月上旬と近隣の大学校(京都8月末)より遅い</p> <p>・林業系高校に対し指定校推薦入学試験の導入を検討</p> <p>・入学対象者への周知や家族等からの勧奨を促すため、ホームページ(県、グーグル)やSNS(フェイスブック、インスタグラムやエックス等)による発信するほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を強化・充実</p> <p>・都市部等からのUJIターンを希望する社会人に対し、林業の仕事ガイダンスや移住相談会等での広報を強化</p>	<p>・卒業生のほとんどが民間の事業体へ行っている高校がある。雇う側としては2年間森林大学校で学んで来てくれる方がいいのだが、魅力のある民間へ行ってしまう。学生もよく知っている。どこに魅力をおいて発信していくかが重要ではないかと思う。</p> <p>・カリキュラムや内容を工夫して、面白い授業をやっているということがSNS等で発信されれば自ずと評判が上がるのでは。</p> <p>・よそとの比較の中で問題点や解決策も見えてくると思う。</p> <p>・森林大学校の魅力が親から見てどうなのか。ここに入ればどんな能力や資格がつくのか、また予算面や生活面のサポートはどうか? 良い就職先にいけるのか? 等が見える形になっていることが重要である。</p> <p>・企業(例えば森林組合)に入った後にどんなキャリアが形成できるのか。どのようにステップアップして生きていけるのか。みたいなどころが見えてくるとイメージしやすいのではないかと。</p> <p>・脱炭素で森林に注目が寄せられている。地球温暖化対策などトレンドワードを上手く使ってアピールしていけばよいのでは。</p> <p>・高校生だけではなく、もっとやりたい人にターゲットをあててもよいのではないかと。明確な目的を持った人、興味のある人、起業したい人などを募集してはどうか。</p>
		オープンキャンパス等の参加者数 30名	達成 30名	<p>7月21日(日): 17名参加(うち入学対象者8名) ・チェンソー伐木や林業機械、野生動物の捕獲の実演のほか、ドローンや様々な実習機器の操作体験を行うとともに、学校概要の説明や個別相談会を開催</p> <p>8月31日(土): 14名申込(うち入学対象者7名) ・台風接近のため中止</p> <p>10月26日(土): 13名参加(うち入学対象者6名) ・チェンソー伐木実演、林業機械やドローン、実習機器の操作体験等のほか、学校概要の説明や個別相談会を開催 ※しそケーブルテレビ取材</p> <p>2月8日(土): 12名参加(うち入学対象者1名) ・入学検討者以外にも森林大学校の学びを知り関係者への勧奨を促すため、卒業研究発表会と林業架線模型の実演等と併せ、オープンデーとして入学対象者以外も含め開催</p>	<p>・オープンキャンパスについて、開催回数を1回増やすとともに、夏休みのほか入学対象者の進路を検討する時期(5月、3月)に開催</p> <p>・入学検討者以外にも森林大学校の学びを知り関係者への勧奨を促すため、オープンデーを拡充</p> <p>・入学対象者への周知や家族等からの勧奨を促すため、ホームページ(県、グーグル)やSNS(フェイスブック、インスタグラムやエックス等)による発信するほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を強化・充実</p>	

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	イ 林業就業に向けた支援	・2年生の森林林業関係への進路確保 100%	概ね達成 94%	・合同企業説明会を4月に実施(参加企業12社) ・卒業見込16名、うち15名が森林林業関係に内定 ・森林組合8名、林業事業体5名、造園会社1名、準公務員1名(鳥取大学附属教育研究林)、その他1名 ※内訳:県内11・県外5 ・県外出身者6人のうち県内就職1名(県外就職5名) ・54社(157人)から求人	・就職先についてより多くの選択肢を知るため、学外就業体験研修の回数を継続して実施 ※年間3回(実施時期:6・7・9月) ・林業事業体等には、学生が就職先を選択する要件等について説明	
		・1年生の森林林業の進路に向けた意識醸成 100%	達成 100%	・基礎セミナー(30コマ)において、就業志望の個別面談等で指導 ・10～11月にそれぞれ3日間、林業と木材関係等の10社で就業体験 ・基礎セミナー等を活用し1年生からハローワーク訪問等実施 ・合同企業説明会を開催(参加企業:10月5社、3月10社) ・進路希望は林業6、公務員2、進学1	・基礎セミナーを通じて、自己を活かす能力の向上を図る ・インターンシップ(学外就業体験)により、実社会への適応力向上を図る	
		・履修状況 退学0名 留年0名	未達成 退学4名 留年2名	・出席状況や履修態度、課題の提出状況を把握し、「不可」となり留年にならないよう適時適切に指導やカウンセリングの実施 (参考) ・退学:4名〔体調不良1名、進路変更3名(進学2名、就職1名)〕 ・留年:2名〔修得単位時間数不足2名〕	・引き続き、各学生に適したきめ細かなフォローアップを実施 ・入学後にマッチングミスとならないよう、オープンキャンパス等において、個別相談や在校生とのフリートーク等の場を設定	
ウ 学校運営の円滑化		・災害時等の安全対策の充実 2件	達成 3件	・体育館が市の避難所に指定されていることを踏まえ、有事の際に学生が率先して活動出来るよう、年度当初にひょうご防災リーダー等の専門家から避難訓練や土嚢づくり等について指導。 ・森林大学校が土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域に立地していることとを踏まえ、法の概要と避難の考え方を説明 ・要配慮者利用施設避難確保計画の策定	・引き続き、災害等を想定した防災マニュアルや避難訓練等の実施	
		・学生生活への支援 休学0名	未達成 2名	・学生生活等を常日頃から観察し、心身の不調を訴える学生に対し、教員が面談を行いフォローするほか、必要に応じ親権者に報告 ・スクールカウンセラーを委嘱し、年4回希望する学生に対しカウンセリングを実施。 (参考) ・休学:2名(後に退学)	・学生との面談やそのフォローアップ、保護者との連携支援などに関する教職員のスキルを向上し、学生生活への支援が円滑に行えるようカウンセラーによる研修等を実施	
		・専門家等による学生支援の実施 3件	達成 4件	・メンタルヘルス対応のため、委嘱したスクールカウンセラーによる学生への相談指導を4回実施(4名参加)	・学生生活等を常日頃から観察し、体調不良の学生と面談するなど、必要に応じ適時のカウンセリングを実施	
		・森林環境教育や公開講座など大学校の資源を活用した地域貢献等の機能強化 10回	達成 14回	・高校との交流授業 6回(県立山崎高校4回、岡山県立高校2回) ・林業事業体等の視察 4回(宍粟市1回、岡山県2回、鳥取県1回) ・宍粟市と連携し、本校学生が執筆した木育新聞を市内中学生に発行(年3回) ・宍粟市の生涯学習発表会において、学校紹介及び学生の研究発表を掲載	・高校との交流事業「森を学ぶ高校生講座」を県内農業高校にも周知するとともに、高校1年生(類型選択前)での実施について高校と調整 ・小学校の環境学習と連携を推進 ・中学生を対象としたトライアルウィークの受入れ機関として登録	・水源の涵養や地球温暖化の問題を森林が担っている。少子化の問題もあるが頑張っ盛立っていかねばいけない。宍粟市という恵まれた環境の中で、県立高校や山の学校等が力をあわせて大学校が生き延びる方法を見出さないと、将来、宍粟の林業はダメになる。

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ウ 学校運営の円滑化	・地域住民との連携や交流、地域貢献の実施 10回	達成 10回	・地元の県立伊和高校と連携して合同体育大会を開催し、高校生と交流 ・地域で伝承されている棚田太鼓を体験伝授 ・地元地域や県立国見の森公園などが主催するイベントにスタッフとして参加するなど地域へ貢献(参加イベント:3回) ・森林林業木材に関わる県域(3件)や県民局域(2件)のイベントに出展し、森林大学校をPRするとともに、参加者と広く交流	・引き続き、地元との連携や交流などを通じ、地域貢献に寄与	・市や商工会をもっと頼って地元の企業に協力をあおいでもらえばできることは協力したいと思う。従業員がいて家族がいる。子や孫がいるので、学生が増えることもあるかもしれない。
		・新しい変化への対応等のため、余裕を持った対応ができるよう教職員の働き方改革を推進	達成 超勤時間 第3四半期末 対前年度比 12%減	・人員増やテレワーク、多様な勤務時間等の設定を推進 ・超過勤務時間の縮減や計画的年休取得を促進	・兵庫県人材マネジメント方針等を踏まえ、さらなる教職員の多様な働き方改革の推進や業務改善が必要	
	エ 教育活動の充実	・教材研究等学生の学習意欲の向上 2件	達成 2件	・卒業研究において、アクティブラーニングによる課題研究となるよう指導 ・オープンキャンパスや高校との交流授業などでは、学生に運営を任せることで主体性を向上。	・アクティブラーニング手法など教え方スキルの向上、理解不足の学生への補講など学生の学習意欲向上に向けた取組が必要	
		・伐木等安全教育の充実 2件	達成 3件	・林業の事故事例を踏まえ、さらなる安全意識の徹底と安全教育の充実のため、チェーンソーの実習において各班2名の指導体制としてうち1名を安全担当として配置 ・伐倒練習機や風倒木伐採訓練装置による安全教育等を実施 ・労働災害撲滅研修を受講し、安全作業の意識向上	・引き続き、伐倒練習機等を活用し、安全教育の徹底を図る	
		・専攻科カリキュラムや自主研修の充実 5件	達成 6件	・森林機能保全1の講義でJークレジット制度や森林の二酸化炭素吸収量等のカリキュラムを拡充 ・OWLやマブリなど3次元計測装置(スマート林業機器)を活用した実習で学生の学習意欲が向上 ・伐木や造材技術の向上の向け、伐木交流競技会(鳥取県主催)に参加 ・事業者高度化コース(研修課)の一部を夏休みに設定し、プロの技術者とともに学生が専門知識を習得 ・自主研修について、設定日に関わらず意欲ある取組を認定。 ・学校外が主催する研修や最新の知見等について、掲示板に周知し自主学習を促進	・集落裏等の危険木伐採に関する技術習得に向け、樹上作業の選択科目を新設 ・既存選択科目の中で、林業技能検定の支援を拡充	・「森林・林業・環境機械展示実演会」には行って、最新の技術を見て現地で交流するのも重要ではないか。 ・カリキュラムは表面上は問題ないが、もう少し踏み込んだ内容で充実できないか。(どうやったら林業の生産性を上げられるか。魅力があるようにするにはどうすればよいか 等) ・面白い講師はいないか。起業して成功している例や ・岐阜の学校は伐木の世界大会でチャンピオンをとるような先生が長くいる。
		・研修科カリキュラムの充実 15科目	達成 15科目	・全体で延べ15科目32日の研修を行い、延336人が受講 ・受講者のニーズを踏まえ、事業者高度化コースに「スマート林業推進研修」を拡充 ・受講者のニーズを踏まえ、地域リーダー養成コースで「森を育むジビエ料理講座」を復活 ・市町職員研修「森と木を活かす行政能力向上セミナー」を実施 ・主催研修の周知を図るため、文書配布に加えて、HPやFacebookによる情報発信を強化	・さらなる受講者の確保に向けて、受講しやすい環境や周知方法・時期、要望を踏まえた企画が必要	・技能検定が来年度は本格的に始まる。40代後半の人達は体系的に習ったことがないので、模擬実習のようなものをしておくと全然違うと思う。
		・学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	概ね達成	・業界のニーズに対応するため、有識者会議での意見聴取等を実施	・就業体験先からの意見聴取や卒業生就職先への訪問調査などの機会を活用し、担い手育成する人材像のニーズ把握が必要	

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	エ 教育活動の充実	授業評価の実施・評価体制はあるか	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・研修終了時や年度末に学生・研修生に対してアンケートを実施するとともに、常時、学生との会話を通じて意見を吸い上げ、有識者会議で意見交換 ・授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮 	・今後も授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮が必要	
		実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫などが実施されている。	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次は林業関係と木材関係、両方でインターンシップ研修(2か所6日間)を実施するとともに2年次は各自就職先を踏まえた事業体で学外就業体験(3か所15日間)を実施するなど段階を踏まえた職業教育を実施 ・安全教育や技術定着、補講等で、現場のリスクアセスメント、足場や退避場の確認、指差呼称等の基本動作を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生の学習意欲や能力の向上のため、学生の反応を踏まえた教え方や教材研究、アクティブラーニングなどさらなる教育方法の工夫等 ・選択科目の新設等による学生の興味に即したカリキュラムの提供など進路に応じて選択できるよう、選択科目の充実を検討 	・機械の整備や修理の基礎知識を学校で教えてもらえると現場で役に立つ。ちょっとした修理ができるようになると技術も上がっていく。
		・インターンシップ等実践教育受入事業体の確保 30事業体	達成 51事業体	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等の実践教育を51事業体(学外31、インターンシップ10)で受け入れていただき、終了後、受入事業体等の参加を得て報告会を実施し、「林業関係には様々な職種があり、学校の授業だけではわからないことを実際に体験してもらえてよかった」と参加事業体から評価を得た 	・引き続き、学生の意向を早めに調査し、マッチングを図る	
オ 教育環境の充実	・企業・団体等との連携強化 2件	達成 2件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税やみなと銀行の寄付金を活用して新技術機器等を導入し、学習内容の充実を図った ・(株)マブリエと連携した授業(三次元計測)を実施 ・みなと銀行と連携した授業(金融教育)を実施 	・引き続き企業・団体等との連携を強化	・大企業などは森林や環境問題に関心が向いているのではないかと。講師に来てくれるところもあるのでは。	
		達成 3件	<ul style="list-style-type: none"> ・R6企業版ふるさと納税等の寄付金で教育環境の充実を図った ・学生用ノートパソコンの更新 ・液晶プロジェクタの更新 ほか 	・引き続き、学生や研修参加者の学習環境の充実のため、企業版ふるさと納税等の寄付金を有効に活用		
		達成 6件	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市有林(安富町)でコンテナ苗の植栽実習 ・上野ファーム(香美町)でコンテナ苗の種苗生産実習 ・公文生産森林組合林(宍粟市)でスギ大苗の植栽実習 ・垣内製材(宍粟市)で木材流通の現地実習 ・竹中大工道具館(神戸市)で木材利用教育にかかる実習 ・きみたつらボ(神戸市)で木材利用教育にかかる実習 	・引き続き、協定締結先との連携を図り実習地として利用させていただくとともに、新たな実習地等の充実に向け取組が必要		